

大阪市災害救助用備蓄物資の調達・管理における民間活用に向けたマーケットサウンディング（市場調査）

質問に対する回答

No	質問箇所	質問内容	回答内容																		
1	倉庫関連	御差支えなければ、浸水地域に含まれる備蓄倉庫の床面積をご教授いただきたく願っております。水害ハザードマップを8つの拠点それぞれ拝察いたしましたところ、おそらく旭区・西区・西淀川区がそれに該当するのかと推測しております。	<p>備蓄倉庫8か所の延床面積は、次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>備蓄倉庫</th> <th>旭</th> <th>西淀川</th> <th>西</th> <th>東淀川</th> <th>鶴見緑地</th> <th>中央</th> <th>生野</th> <th>阿倍野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床面積</td> <td>1,190㎡</td> <td>720㎡</td> <td>200㎡</td> <td>410㎡</td> <td>850㎡</td> <td>2,000㎡</td> <td>1,940㎡</td> <td>1,920㎡</td> </tr> </tbody> </table>	備蓄倉庫	旭	西淀川	西	東淀川	鶴見緑地	中央	生野	阿倍野	床面積	1,190㎡	720㎡	200㎡	410㎡	850㎡	2,000㎡	1,940㎡	1,920㎡
備蓄倉庫	旭	西淀川	西	東淀川	鶴見緑地	中央	生野	阿倍野													
床面積	1,190㎡	720㎡	200㎡	410㎡	850㎡	2,000㎡	1,940㎡	1,920㎡													
2	倉庫関連	各拠点の使用面積をご教授ください。（鶴見緑地倉庫と中央備蓄倉庫以外）	南海トラフ巨大地震の被害想定において浸水する2か所につきましては、西淀川備蓄倉庫と西備蓄倉庫となります。																		
3	倉庫関連	備蓄倉庫8か所の選定理由をご教授ください。	本市の備蓄倉庫は、①南海トラフ巨大地震の想定避難者数約53万人分の備蓄物資が保管できる場所の確保、②本市施設の活用、③相互に補充し合う分散備蓄体制を構築するといった観点のもと、整備しています。																		
4	備蓄品関連	各備蓄品目における ケースサイズ、重量及び入り数の詳細をご教授ください。	資料1のとおりです。																		
5	備蓄品関連	備蓄品の外装について決まりはありますでしょうか。（大阪市の文言や賞味期限の文字サイズなど）	主に自治体名称、物資名称、入数、箱寸法、容量（㎡）、重量、賞味期限、製造年月日などを記載しており、発注の都度仕様書に記載しております。参考として直近のアルファ化米の発注時の外装仕様については資料2のとおりです。																		
6	作業関連	備蓄倉庫の管理に携わっている人数をご教授ください。 可能であれば現状月間の延べ作業時間をご教授ください。	備蓄倉庫の管理に携わっている職員は3名で、月間の延べ作業時間は約166時間です。主な作業内容は、購入物資搬入の立会い、倉庫内整理、有効活用先等への搬出、搬入搬出先との連絡調整、在庫管理データベースの更新など様々であり、人手が足りない際は上記3名のほか、課長、課長代理、担当係長も含め、随時室内での応援体制を組みながら業務を遂行しています。																		
7	契約関連	本案件についての主たる業務については備蓄品の管理ということでよろしいでしょうか。	本案件の業務には、年間を通して備蓄倉庫での購入物資の受入れ準備作業（搬入スペースの確保）、購入物資搬入時の立会い・数量確認、倉庫内整理、区役所など有効活用先への搬出、搬入事業者や有効活用先との連絡調整、在庫管理データベースの更新などがあり、12月頃から年度末にかけて繁忙期を迎えます。																		